

みなみのひろば

MINAMI no HIROBA

<発行>

南地区コミュニティ・南公民館

連絡先 36-7341

令和3年1月20日 第445号



令和3年



新年明けましておめでとうございます

今年こそ明るい話題の多い一年になりますように・・・

皆様御家族おそろいで健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。この号が皆様のお手元に届くころは、年が明けてから既に3週間ほど経過していますが、遅ればせながら今年最初の御挨拶をさせていただきます。

さて、昨年来、国内はもとより世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症ですが、年が明けてもその勢いは収まらず、新規感染者の増加傾向が続いています。今年こそ、この勢いを止めて、平穏な日常生活を取り戻したいですね。とにかく、私たち一人ひとりの感染防止に対する心がけと行動が必要です。引き続きみんなで協力して取り組んでいきましょう。

ところで、今年は「丑年」。一説では、十二支の動物たちの中で一番動きが緩慢で歩みが遅い丑(牛)の年は、先を急がず着実に物事を進めるのが大切なのだそうです。十二支の2番目の年であることから、前年の「子年」にまいた種が芽を出し成長する時期で、結果を求めるのではなく、結果に向けて地道に基礎を積み上げていくことが肝要といわれています。コツコツと目の前のことをこなしていくことが、将来の成功につながるのだと考えたいものです。

つまり、今年は、我慢(忍耐)をしてこれから芽を出す(発展する)前触れとなるような一年であるとも考えられ、まさにコロナ禍で迎えた令和3年を表しているように感じますね。日常生活での我慢はもうしばらく続きそうですが、力を合わせてコロナを克服し、これまで以上の明るい未来が訪れることを期待しましょう。

旧年中は、公民館の臨時休館や利用の制限を行ったり、自治会やコミュニティの活動にも自粛要請が出されたりと、地域活動やサークル活動にも大きな影響が生まれました。

今年も、しばらくの間は、コロナ感染に注意をしながらの活動が続くものと思われませんが、皆さんの日常生活に浸透してきた「新しい生活様式」を実践しながら、できる限りの範囲で事業を行ってまいりたいと考えています。

今日1月20日は大寒。いよいよ冬本番を迎えます。朝晩の冷え込みも厳しさを増してきました。空気も乾燥していますので、皆さんくれぐれも体調管理に気を付け、規則正しい生活で免疫力を保ちながら、どうぞ元気にお過ごしください。



本年もどうぞよろしく
お願い 一言～申し上げます



冬休みの書初め、上手にできたよ！

「冬休み宿題お助け隊」

1月6日(水)と7日(木)の2日間、地域学校協働本部事業の一環で、南小学校児童を対象とした「冬休み宿題お助け隊」を実施しました。

この事業は、南コミ・南小・西那須野中・南公民館が連携して、地域の人材を子どもたちの健全育成につなげ、よりよい地域づくりを進めることを目的に実施したものです。今回は、コロナの感染拡大が心配される状況を踏まえ、会場の「3密」防止が十分図れる程度に参加協力者数を制限するなどの対策を講じました。

今回は、冬休みの宿題の仕上げに少し自信のない小学生14人が、2日間に分かれて書初めや学習ドリルなどに取り組みました。また、学習支援として地域在住の書道講師や南コミ役員、西那須野中学校生徒が参加協力して小学生の宿題の手伝いをしながら互いに学び、貴重な交流の機会を持つことができました。

はじめは緊張していた小学生たちでしたが、時間がたつにつれて緊張もほぐれ、わからない問題の解説を地域の役員さんなどに質問したり、中学生に書道の手伝いをお願いしたりと、和やかな雰囲気での学習ができてきたようです。全員、予定していた宿題を仕上げることができ、晴れやかに登校日を迎えたことでしょう。

【緊急のお知らせ】 新型コロナ感染拡大防止のため、当面の間、公民館の開館時間を **午後8時まで** とさせていただきます。夜間における不要不急の外出は控えましょう。皆さんの御協力をお願いいたします。

☆☆地域学校協働本部だより☆☆ **西那須野中学校の皆さん、宿題のお手伝いありがとうございました**

過日の「宿題お助け隊」事業には、指導側の協力者として西那須野中学校の生徒たちも参加しました。今回は、南小学校の卒業生8人に応募いただき、ドリルの設問解説や書初めの指導支援など、小学生たちの宿題を仕上げるためのお手伝いに力を発揮しました。参加生徒は全員親切丁寧で、小学生たちは頼もしい先輩たちの姿にあこがれの気持ちを抱いたことでしょう。また、空き時間を活用して、コミュニティ佐藤会長による講話もあり、南地区の開拓の歴史も少しだけ勉強することができました。今回の事業において、中学生の参加協力をお願いしたことは大成功だったと思います。南地区の未来は明るいぞ！



令和2年度南コミ福祉部事業 ミニ門松作り教室を開催しました



12月20日(日)、福祉部主催の「ミニ門松作り教室」が開催され、地域住民など29人が、コロナ感染防止に注意しながら年末の恒例事業に参加しました。



講師には市の社会教育指導員を務める渡邊純子氏をお招きし、先生の指導のもと専門業者も使用する本物の材料を使った門松の製作に熱心に取り組むことができました。

今回は「密」を避けるため、先生からの直接の手ほどきは受けられませんでした。細かい説明をいただき、参加者一同会心の作品を仕上げることができたようです。

心を込めて作った門松は、各自が自宅に持ち帰り飾っていただくことに。いろいろと大変なことがあった令和2年を締めくくり、気持ちを新たに、希望に満ちた新年を迎える準備ができたのではないのでしょうか。



公民館年末大掃除・御協力ありがとうございました

公民館の定例利用団体の皆さんなどに御協力をいただき、12月25日(金)、館内の大掃除を実施しました。今年は、コロナの影響で利用制限などを行ったことで、満足な活動ができない中でしたが、61人の参加協力のもと、日常管理では手の届かない場所などをきれいに清掃していただきました。

作業中はできるだけ「密」にならないよう注意をしながらも、手際よく対応していただいたおかげで、予定より早く終了することができました。感謝。



おいしい味噌の出来上がり、楽しみだぞ～

南コミ女性部主催
(南小家庭教育学級共催)

味噌作り教室

冬の恒例行事「味噌作り教室」が、去る1月10日(日)に開催されました。今年はコロナの影響もあり中止も検討されましたが、参加者の健康チェックを徹底し、午前・午後の2部制で人数を分散させるなど感染防止に十分注意をし、各種対策を講じた上で開催にこぎつけることができました。

何より、毎年多くの方が楽しみにしている行事でもあり、主催者側としてもどうすれば開催ができるか検討し、また、皆さんにもコロナ禍での事業のあり方を考えながら参加をしていただけたのもよかったのではないかと思います。

講師を務めていただいたのは、おなじみの茨城県結城市の老舗味噌屋、秋葉糶味噌醸造のスタッフの皆さん。糶の知識や奥深い日本の食文化についてのお話を交えながら、味噌の仕込み方を親切丁寧に教えていただきました。2時間ほどかけて材料を混ぜ込み、樽に詰めれば今日の作業は終了。あとは家庭に持ち帰ってこまめに様子を見ながら味噌に四季を感じさせて(☺ここがポイント)育てていけば、今年の秋には待ちに待った我が家だけの「手前味噌」が出来上がり。

また、今年も南小家庭教育学級との共催事業としたことから、親子での参加もありました。子どもたちにとっても、日本の伝統の食文化に触れる貴重な体験になったことと思います。おいしい味噌が仕上がるころには、穏やかな日常が戻っているといいですね。

